

【名月】 満月

中秋の名月は旧暦八月一五日の月で、澄んで美しいとされ、農耕の儀式で新芋などを供えて祀る。旧暦九月一三日の月は後の月で、このときには豆や栗などを供える。片見月という言葉があるように、月見は両方とも必ず同じ場所を祀るという習わしもある。

二〇一三年の名月は満月であつたが、旧暦と月齢の関係がずれていくので、中秋が毎年満月にあたるとは限らない。また太陽暦との関係もずれていくから、二〇一四年の名月はかなり早く、まだ暑い日の続く九月八日で、かつ満月の前日であつた。次に中秋の名月が満月になるのは二〇二一年になる。

月は、地球に最も近い自然の天体であり、大きな衛星で、直径で地球の四分の一、質量では八十分の一に及ぶ。地球から見た視直径は太陽にほぼ等しい。

宇宙が一三七億年前に生まれ、その中に太陽系が生まれたのが四六億年前で、ほぼ同時に地球も生まれた。月で採取された月の石が、地球のマントルと似ていること、またその年齢も地球に近いことがわかっている。それをもとに、地球が生まれて間もなく、火星ほどの天体が地球に衝突して月ができたと考えられるようになった。初めに二つの月ができて、後で合併したという説もあり、まだ議論が続いている。